追悼文　ありがとう・竹田敏さんへ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　神田（堀内）愛子（10組）

　世界中がソチオリンピックに沸いている最中、一人の大切な同級生が旅立ちました。おそれながら追悼文を書かせていただきます。

　竹田さんとの高校時代の思い出です。 コース別なので髙２の頃、私と竹田さんと神宮さんで化学の講座が一緒になりました。 こんなに優秀な人達と一緒で…と気が引けました。案の定化学の実験は私の手を出す場面は一つもなく、竹田さんと神宮さんでスイスイと進め「まとめ、やって」とばかりに私はいつもメモ係。

　倫理社会も又この三人で一緒の講座。 確か「大乗仏教と小乗仏教をまとめて発表せよ」の課題に、「おれたちでやるから」と私は聞いているだけ。 成人してから、なぜ仲間に入れてくれなかったかと聞くと、「照れくさかったから」との返事。 照れ屋だったのですね。

　優秀で難関を突破してゆく竹田さんの姿は、立派で眩しく感じていました。 大人になってやっと気安く会話ができるようになったのに…残念でなりません。

　私が竹田さんに最後にお会いしたのは、四年前の上田市矢島時計店サロンでの竹田さんの講演会です。 確か上田の生糸・蚕の話。その後の親睦会で「子ども達に読んでもらえたら」と小学生向きに昆虫を研究した本（竹田敏著）を何冊かいただきました。 調査の仕方など丁寧に書かれていました。 ありがとうございました。 大切に扱います。

　もう一つありがとうは、私が刊行した「まぼろしのノーベル賞―山極勝三郎の生涯―」の本を、早々と読んで下さり推薦文を書いてくれた事です。 「分かりやすく大変に読みやすい」とのお褒めの言葉をいただき、お陰で本はたくさん売れました。 ありがとうございました。直接お会いして御礼を言いたかった。

　本にも書きましたが、私も「ガン友」です。 現在はお陰様で元気に暮らしていますが…、いつ何があるか分かりません。 大病を経験すると一日一日が貴重です。 そう考えると竹田さんがどんな思いだったかは想像を絶します。 もっともっと活躍していただきたかった。 残念です。 ご苦労様でした。 ゆっくりと休んで下さい。 そして、そして、ありがとうございました。　（2014年2月25日）